

## ボランティア

### コウノトリ湿地ネット

さたけ せつお

代表 佐竹 節夫さん

戦前の豊岡の水田は耕作に非常に苦勞する湿地で、戦後は乾田化やほ場整備等の土地改良がさかんに実施されました。しかし、平成17年、工事中のほ場に1羽の野生のコウノトリが降り立ち優美な姿を見せたことから、計画を変更して残った部分の半分を湿地に再生することになりました。

コウノトリは田のような開放的な湿地環境を好むため、ほ場整備された田でも、コウノトリが過ごせるように環境に優しい農業(コウノトリ育む農法)が行われています。一部の田には冬場でも水が張られ、小さな湿地の役割を担っています。また、大規模湿地では、市民が草刈り等の維持管理をボランティアで行い、環境教育の場としても活用されています。

最近では、それら湿地のネットワーク化を図り、「円山川下流域及び周辺水田」として、2012年の「COP11」でのラムサール条約湿地登録を目指しています。



「私たちのまちづくりはこの写真のイメージ。農家の女性と但馬牛、コウノトリと一緒に写った昭和35年の写真を紹介する佐竹代表

### memo



### 河川でも湿地再生!

国土交通省が河川敷の湿地面積を増やす事業を行っているとのこと。多様な主体が取り組んでいるんですね。

## 行政

### 豊岡市立コウノトリ文化館

なかおく まさあき

館長 中奥 政明さん

豊岡市では、コウノトリの野生復帰の取り組みを、豊岡の自然を舞台に、歴史や伝統を見つめ直しながら、人・もの・知恵などをつなぎ、取り組みを広げていく「まちづくりの過程」と捉えています。

「コウノトリの郷公園」では、豊岡市と兵庫県が連携して、コウノトリの種の保存と遺伝的管理、野生化に向けての科学的研究および実験的取り組みを実施しています。公園内にある「コウノトリ文化館」では、人と自然の共生できる地域環境の創造に向けた普及啓発を行い、毎年30万人以上が来館するなど観光振興にも役立っています。



たくさんの人でにぎわう「コウノトリ文化館」



中奥館長

人工飼育中のコウノトリがエサをとる訓練(給餌)の時間。飼育員さんが小魚を池に投げ入れると...



←たくさんのコウノトリが池にドボン!これは旺盛

### memo



### 双眼鏡で見ると...

どのコウノトリも足環を付けています。四国などに渡ったコウノトリもこの足環で確認することができます。

# コウノトリが運ぶご縁で地域が一つに

～兵庫県豊岡市の取り組み～



豊岡に視察に行ってみると、コウノトリをシンボルに、一言では語り尽くせないたくさんさんの取り組みが行われていました。ここでは、今回お会いした方々のお話のエッセンスをご紹介します。



## 民間/企業

### コウノトリ本舗 コウノトリ羽ばたく株式会社

わか りのる

代表取締役社長 脇 稔さん



脇社長



コウノトリ育むお米

「コウノトリの郷公園」に隣接する「コウノトリ本舗」は地元企業他への出資による会社で、豊岡らしい環境配慮型の食品やグッズ等の商品を扱っています。具体的には、安心安全な「コウノトリ育むお米」のほか、その米を使ったお酒、麺類、洋菓子など。ここでテストケースとして販売し、人気が出たものは東京有楽町にあるアンテナショップで売り出すこともあり、企業の新商品開発の受け皿として、地場産業振興に一役買っています。働いている人も地元の人ばかりで、雇用創出にもつながっています。

### memo



### 地元企業の元気が感じられた!

「コウノトリ育むお米」で作られた商品はお酒だけでなく、こんなにたくさん! 環境を良くする取り組みが経済効果を生んでいる証拠!

## 農業者

### 農事組合法人 河谷営農組合

わか おさむ

組合長 岡 治さん

河谷営農組合は、集落の農地を維持する目的で平成13年に発足しました(平成19年、法人化)。ちょうどその頃、人工飼育したコウノトリをいよいよ自然界に放鳥することになり、「田んぼにエサがないと困るだろう」「エサが農業で汚染されていたらいけない」と考え、農業や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」の研究が始まり、それに参加しました。



岡組合長

栽培した米はコウノトリのブランド米として高い価格で取引されています。また、大豆も「コウノトリ育む大豆」として大手豆腐メーカーや関西の有名お寿司チェーンに納め、コウノトリのブランドで商品化されています。



「コウノトリ育む農法」で、冬の間、水を張った田(上)。渡り鳥のねぐらにもなり、毎年コハクチョウが飛来し、地区の冬の風物詩となっているようです(写真提供:農事組合法人 河谷営農組合)